

音楽芸能スタッフ科 PAコース  
2年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅱ	74	2	4
講義	音楽史Ⅱ	74	2	4
講義	電気・舞台知識Ⅱ	74	2	4
講義	PC知識Ⅱ	74	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	74	2	4
実習	分野別実習Ⅱ	74	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	74	2	2
実習	イクイップメントⅡ	74	2	2
演習	スタッフワークⅡ	148	4	8
実習	PAⅡ	148	4	4
合計		888	24	38

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	ビジネスマナー講師歴7年。ビジネスマナー、第一印象についての講座を一般、企業向けの新人社員研修にて実施。上記の経験を活かし学生達が就職活動や社会人となるために必要なスキルを身につけるために、ビジネスマナー・第一印象について自己ブランディング力などをコーチング手法を絡めて指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。</p> <p>②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。</p> <p>③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。</p>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。</li> <li>・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることが出来る。</li> <li>・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。</li> </ul>					

対策	
【前期】 1～4回目	・就職面接対策 ・筆記対策
【前期】 5～8回目	・マナーの基本(第一印象、あいさつ、身だしなみ、態度、表情、姿勢)復習 ・敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語、クッション言葉、間違えやすい敬語)復習
【前期】 9～12回目	・コミュニケーション(聞き方・話し方、接客の言葉遣い、お客さま心理の理解)
【前期】 13～16回目	・ビジネスマナー①(ビジネスマナーの意義、来客対応、訪問のマナー、電話対応)
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。接遇の基本、言葉遣いなどに関わる知識や技能を問う。
【後期】 20～23回目	・ビジネスマナー②(ビジネス文書、ビジネスメール、指示の受け方・報告のしかた)
【後期】 24～27回目	・日本のしきたり①(冠婚葬祭のマナー、年中行事、贈り物のマナー)
【後期】 28～31回目	・日本のしきたり②(食事のマナー「和食・洋食・中華」、お酒のマナー)
【後期】 32～35回目	・社会人としての心構え(企業人としての必要要素、職場のルールとマナー、環境設備、ストレス対策)
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。オフィスワーク、日本のしきたりなどに関わる知識や技能を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることはこれから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響・録音技術史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	ライブホールのサウンドエンジニアとして20年以上従事後、現在はフリーランスとしてライブ、フェスや講演会など年間100本以上のPA業務に携わる。 上記の経験を活かし音響・録音の歴史に関する講義を行う。				
<b>授業概要</b>					
電話機の誕生や蓄音機の発明まで遡り、スピーカー、ミキシングコンソールやレコーディング機材などの音響・録音技術がどのような発展を遂げてきたか、また、レコード、カセット、MD、CD、デジタルオーディオプレイヤーやインターネット上のコンテンツなどの音楽メディアの変遷を学び、時代背景や技術の発達知識を習得する。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>電気音響工学の変遷を学び、今日使用されている機材への理解を深める。</li> <li>流通している音楽メディアの変遷を学ぶ事で、普段聴いている音楽への知識を高めると同時に、今後も進化して行くであろう音楽メディアへ対応出来る教養を身につけ音響、録音機材の歴史、音楽メディアの変遷への教養を高める事で、現場で活かせる知識を養う。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業概要の説明。 音響の成り立ち、PAについて。
【前期】 5～8回目	MTRからDAWまでの変遷。 ダイナミックマイクロフォンについて。
【前期】 9～12回目	コンデンサーマイクロフォンについて。 マイクロフォンの成り立ちについて。
【前期】 13～16回目	蓄音機についてレポートを作成。 ミキシングコンソールの変遷。
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期授業内容から抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身につけているかを問う。
【後期】 20～23回目	音楽メディアの変遷。 デジタル技術の発展について。
【後期】 24～27回目	1940年代～1960年代の音響、録音技術に関する講義。
【後期】 28～31回目	1970年代～1980年代の音響、録音技術に関する講義。
【後期】 32～35回目	1990年代から現在に至るまでの音響、録音技術に関する講義。
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身につけているかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場で扱う機材の変遷を知る事で、各メーカーが出す機材の意図を垣間みる事が出来る様になるはずです。 そこを抑えておけば、今後新しい機材が出た際や、音響・録音の概念が時代とともに変化しても対応出来る知識が身につきます。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/照明コース/ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	ESPエンタテインメント福岡校のイベント制作コースを卒業後、企画制作コースのアシスタントとして勤務。並行してアーティストのマネージャーも担当。この授業では上記の経験を活かし、PA、照明、ローディーに特化したPCの授業を行う。				
<b>授業概要</b>					
この講義では、音楽業界(PA.照明.ローディーコース)に特化したMicrosoft Office(Word/Excel/PowerPoint)ソフトウェアの概要と応用的な使いかたを学ぶ。					
<b>到達目標</b>					
<p>・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。</p> <p>・就職後、ビジネス文書はこれらのソフトウェアのいずれかで作成されていることがほとんどである。したがって、この講義をマスターすることは組織から必要とされる人材の基本的な職務遂行能力の獲得に直結している。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	歌詞作り(タイピングの練習)(Word、PowerPoint)
【前期】 5～8回目	ショートカットキーの応用
【前期】 9～12回目	ステージプロット・タイムテーブル作成(Excel)
【前期】 13～16回目	スケジュール・セットリスト作成(Excel)
【前期】 17～19回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 20～23回目	トラックの積み込み図作成
【後期】 24～27回目	スケジュール作成
【後期】 28～31回目	台本作成
【後期】 32～35回目	請求書・見積書作成
【後期】 36～37回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/PC操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、業界を問わず世界中のビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。この講義を受講することで、仕事をする上で欠かせないパソコンによる文書作成ノウハウを身につけることができます。
備考	特になし。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	電気・舞台知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡で照明家として活動中。近年では、Tリーグ開幕シリーズ/ファイナルシリーズの照明デザインオペレート、福岡発アイドルグループ「LinQ」の専属照明オペレーターや、福岡よしもと新劇場における照明プランニング及び照明オペレート/音響オペレート/舞台監督を担当。 上記の経験を活かし電気と舞台全般における講義を行う。				
授業概要					
<p>①芸能の発生から芝居小屋の広がり、近代の公会堂、劇場、ホールへと歴史的に変化していった、日本の劇場、ホールについての学習する。</p> <p>②世界の劇場建築の変遷について、ギリシャからローマ時代、オペラ、クラシック音楽などの上演に適した専門劇場の形態を学習する。</p>					
到達目標					
<p>・卒業後、劇場等演出空間での創造性溢れる自由な表現活動に携わるスタッフに求められるのは、高度な創造と制作であり、さらには円滑で、より安全な公演実施には、音響、照明などの分野を超えた共通認識が必要とされ、公演に携わる者のコミュニケーションのために、必要不可欠な知識を習得が求められる。制作スタッフは、専門教科内で身につける知識とは別に、劇場が歴史的に、また洋の東西を超えて、文化創成、文化発信、文化体感の空間であることを認識することで、単なる技術者にとどまることなく、文化の一翼を担う、インテリジェンスを身につけた存在を到達目標とする。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	●社会の中での芸能とホールの存在意義。
【前期】 5～8回目	●日本の公立劇場とホール。
【前期】 9～12回目	●欧州のホールの歴史、構造と文化的背景。
【前期】 13～16回目	●ホール、劇場の性能と機能。
【前期】 17～19回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 20～23回目	●文化芸術政策と劇場ホール。
【後期】 24～27回目	●実演芸術の制作。
【後期】 28～31回目	●劇場・音楽堂 その設備と運用の実際。
【後期】 32～35回目	●総括。
【後期】 36～37回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	卒業後の進路であるイベント制作会社、音響会社、照明会社、ローディー会社、プロダクション等の現場に臨むに当たり、これからエンターテインメント就労する中では、習得する機会のない基礎的な舞台全般知識の習得を目指します。
備考	舞台技術の共通基礎

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かし音響知識に関する講義を行う。				
授業概要					
<p>①音響に関する専門用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する応用知識を学ぶ。</p> <p>②スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・実際の現場では時間がなかったりなど、わからないことでも聞きづらい状況は多々あります。音響の基礎から応用までを学習し、実作業の中で実際に活かせる知識を身につけます。</p> <p>・音響に対する幅広い知識を身につけ、実務での予期せぬ自体にでも活かせる用に理解度を深めるのが到達目標です。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音響に関する電気知識・電気抵抗について。
【前期】 5～8回目	空間系・ダイナミクス系エフェクターについて。
【前期】 9～12回目	デジタル技術・機器間の同期について。
【前期】 13～16回目	デシベルや音圧について。 前期の復習。
【前期】 17～19回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 20～23回目	1年次から2年次前期までの復習と補足① 最新のPA・レコーディングシステムについて①
【後期】 24～27回目	1年次から2年次前期までの復習と補足② 最新のPA・レコーディングシステムについて②
【後期】 28～31回目	レポート作成①
【後期】 32～35回目	レポート作成②
【後期】 36～37回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響に関する基本的なことから応用まで、実務で使用する知識を学習します。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ		年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディードなど多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かしサウンドアナライズに関する実習を行う。				
授業概要	<p>①チェストボイス、ミックスボイス、ヘッドボイスやファルセットなどの歌声、アコースティックギター、エレキギター、ベース、ドラム及びキーボードなど様々な「音」を分析し、それぞれの性質及び特徴を理解するとともに音響エンジニアとして必要な応用知識を身につける。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌声の種類を理解する。</li> <li>・楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析する。</li> <li>・DAWソフトを使用して、視覚的、聴覚的に理解度を深める。</li> <li>・それぞれの音の性質や特徴を理解することができる。</li> <li>・ジャンルやシチュエーションによって使い分けられる音のEQ処理技術を身につけることができる。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業概要と年間スケジュールの説明。歌声に関する分析、解説。
【前期】 5～8回目	アコースティックギターに関する音の分析、解説。
【前期】 9～12回目	エレキギターに関する音の分析、解説。
【前期】 13～16回目	ベースギターに関する音の分析、解説。
【前期】 17～19回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 20～23回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 24～27回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 28～31回目	鍵盤楽器に関する音の分析、解説。
【後期】 32～35回目	その他の楽器に関する音の解説。
【後期】 36～37回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌声や楽器の特性を理解することで、シチュエーションに適した音作りをすることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響システムⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメントⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かし音響システムに関する講義を行う				
授業概要					
<p>①スピーカー、パワーアンプ、ミキシングコンソールや各種エフェクターをはじめ、その他周辺機器の安全かつ正しい取り扱いを学ぶ。</p> <p>②総合的に音響のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上にも反映していく。</p>					
到達目標					
<p>・実技授業や実際の現場の際に、的確なセッティング・状況に応じた機材選びやマイキングなどがスムーズに行えるようになるよう学び、音響のシステムを色々な視点から仕組みを理解していく。</p> <p>・実際に音響機材に触れ、構造や用途・特徴などを学ぶ。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	マイク・D.I・スピーカーなどを分解し、構造・性質・特性を学ぶ。
【前期】 5～8回目	ギターアンプ・ドラムセットなどのマイキングをより細かく学び、状況に応じたセッティングを学ぶ。
【前期】 9～12回目	疑似的にインイヤーマニターをセッティングし、スピーカーのみの場合・イヤモニのみの場合・両方の場合を聞き比べ、的確なチューニング・レベルの取り方を学ぶ。
【前期】 13～16回目	ワイヤレスマイク・ワイヤレスイヤモニの周波数帯域を理解し状況に合わせたプランを学ぶ。
【前期】 17～19回目	■前期試験:適切なマイキング・ワイヤレスの周波数帯域のプランができるように実技試験を実施し理解度を問う。
【後期】 20～23回目	前期おさらい～PA周りの電源・楽器周りの電源について学ぶ。
【後期】 24～27回目	小型スピーカー～大規模スピーカーの構造・設置方法・状況などを理解する。
【後期】 28～31回目	後期LIVE WEEKに向けてのプランニング①
【後期】 32～35回目	後期LIVE WEEKに向けてのプランニング②
【後期】 36～37回目	■後期試験:ライブホールの音響システムについて実技、筆記試験を行い理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	小規模～大規模なイベント、さまざまな状況に対応できるよう基本をしっかりと学びます。実際の現場は基本の応用ですので臨機応変に対応できるようしっかりと学習します。
備考	特になし。



# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワークⅡ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワークⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p>					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	前期授業における内容について、イベント制作コースを中心に企画会議を行い、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【前期】 9～16回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【前期】 17～24回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【前期】 25～32回目	前期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【前期】 33～37回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 38～45回目	後期授業における内容について、イベント制作コースを中心に企画会議を行い、それぞれの企画に対し、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【後期】 46～53回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【後期】 54～61回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【後期】 62～69回目	後期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【後期】 70～74回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解/コミュニケーション」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレートⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PAⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々合ったセッティングを実践する。                  ②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo SD7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解します。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・デジタルミキサー(DiGiCo SD7・YAMAHA CL5)を使用してのハウスオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。</p> <p>・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。</p> <p>・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをSD7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。</p> <p>・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 9～16回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 17～24回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 25～32回目	SD7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 33～37回目	■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用してのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 38～45回目	SD7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 46～53回目	SD7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 54～61回目	FOH Console SD7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 62～69回目	SD7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 70～74回目	■後期試験:FOH Console SD7・Monitor Console CL5を使用してのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さもありませんが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用してのハウスオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布